



競艶あこが當世りま搦やう三編さん自序じよ

先ま年ねんあはれ今いまやうやう花はなの初編はつをを作つくるもの

一いっ年ねん文ぶん永えい堂どうあはれあはれ思おもひひまます

蒙もう妻さい一いっとと偶ぐう中ちゆうをを僥やう倖じやうあはれあはれ園えんのの身み鏡きやう

旨あま人ひとのの礫りやく達たつ草くさ稿こうあはれあはれ二に篇へん目めのの全ぜんく

証判しやうはんよよううややままうう寸すん喜きあはれあはれけけががああはれはれ

中ちゆうをを橋はし測そくのの酒しゆのの過かささああはれはれ



三編上

三編上

升飲と極ぎ、歌は柱をひききり。過
 ころもなる母及をさるる。あはれははたは
 勝なり。素ぬ書はのりはくく編で。
 三冊つてつらやうどやう。婚姻の規式よをかく
 も三つくくぬ約編著の筆はあや
 長心趣向を短文なり。不萬年の法
 壽命。巳の盡まのたか万年。あうりや。

月の端折なり。試筆ふもめら

二代目也

十返舎一九



徳川御用



後
小夜戸
孫之進と改む

唄妓
後梅太郎
妻との



漢師
細八

悪漢
嘉千兵衛



萩原 屋
 梅 太郎
 梅 太郎
 本 毒
 桔 梗



全華園 秋画
 阿秋
 怨灵

阿秋
 怨灵

古今集 さらけり物の

友則

採らるる

野のたより

松のふり

花のうら



作者自画

仇競今様櫛三編上之卷

江戸 十返舎一九著

第十四回 花むしり

東風吹ハ白ひととせよ梅の花主りとき春分忘色を
六菅家筑紫に坐して詠ト多ひ一かん歌より花梅と
ふ故事以思ひ合する於春が再會その身ハ不測小生
存命みるまねて我理に多しより。伯母の重病を救
ふ。某の代小身と集く。川寄の里の歌妓と多し縁者と

呼まで引ひ移の名高きも。原来美麗き生得き。更さ不達ふたつる餘あまり。恰さ判はんる性さがも六む川せん尋じん吉きち公こうといふ。喫くと。自みづかり作り出いしと。藤ふじ附づし。喫くひそめし。世よの傳つたで。藤ふじ吉きち公こうといふ。後のちは東あづま吉きち公こうといふ。今いま鳥とり八はち都と方ほうの火ひ。賈あき客きやく撰せん津つ國くに屋や嘉か千せん多た法ぽう。誘いざなひとて。花はな見み子ことて。出でる。測はかりど。梅うめ丘かみ山やま引ひ連つる。色いろ葉は紙し用もちのん湯ゆ成なり得えんと。言こと影かげある茅ちや屋やと見みつ。百ひゃく穀こく亭ていて。額がくと目め當あに何なにか。くま入いる。六む山せん堂どう國くにらんや日ひ東とうより。嘉か八はち葉はのる梅うめを解とけ。

此こ知ち不ふ隠いんる。從ま住すま居い業ごうの戸と。の岡おか居いの春はる知ち子こ。金かね衣い鳥とりの笈ふしの水みづの氷ひよう解かいとて。若わく外ぐわい去き訪ほうふ人ひとも山やま嵐あらしの。小こ邊へん山さん土つちに。一ひと個この僕ぼくと子こ僧そうと相あひ。小こ梅うめ花はな散さん採さいと。庭にわ不ふ移うつし。足あしとて。喜よろこ程ほどハ樂たのま。及およ用もちる。修しゆ内ない活かつ樹じゆ成なり。向むか阿あ迦じや級けい如にょて。不ふ掌てを合あせ。俗ぞく名な於お春はる頓とん生せい苦く程ほど脱だつ苦く与よ。樂たの南なん无む佛ぶつと念ねんずる。好このハ業ごうも。桑そう門もんの境さかい界がいとて。行いひ。ま。不ふ移うつし。一ひとが。二ふた編へんの末すえに。わ。春はるが。梅うめを解とけ。人ひとト。ゆ。め。り。



あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

あ。別^ワの掃^ハの掃^ハ。チテントナリチク。「ヤシヤアリ。

性直の。小町といふも。及ぶ。まじき。稀なる。美色。備はる。
 今茲十七の。花の。競。都。又ある。
 の。の。の。
 舎。の。
 言。の。
 入門。の。
 是。の。
 の。

の。の。
 性。の。
 の。
 の。
 の。
 の。
 の。
 の。
 の。
 の。

一々不^しい^く。やがて桔^き梗^げ子^こい^ひく^るも^う。そ^のも^の妻^づを^謀余^り
 有^る。萩^{はぎ}原^{はら}村^{むら}次^{つぎ}と^のふ^の娘^{むすめ}も^う。あ^まと^碎る^もの^もか^ら。
 市^{いち}の^村を^所刀^た裕^よ子^こ急^{いそ}ぐ^る道^{みち}。こ^のづ^のふ^のり^の。そ^の時^{とき}不^ふ林^{りん}ト
 係^{けい}不^ふ行^{ぎょう}の^ゆが^縁あ^のり^く。お^のひ^の叶^はい^ま婦^ふと^あり^ける^が。彼^{かれ}
 人^{ひと}は^かま^どの^と流^{なが}さ^中に^とく^るま^まぐ^らう^け。そ^の時^{とき}か^ら。
 親^{おや}の^思智^ちの^方より。押^{おし}く^婚姻^{こんいん}へ^い。こ^のま^まど^も末^{すえ}の^得遂^と
 ぬ^縁も^う。仇^{あだ}結^{むす}ひ^の下^{した}紐^{ひも}も^解く^秘の^契も^形く。左^{ひだり}
 小^こつ^け衣^ぎつ^け。幸^{さい}む^けり^く。上^{うへ}の^情あ^まく^ふ必^{かなら}を^増ま^す

媒^{まへ}女^{にょ}も^う。紙^{かみ}の^分。そ^の時^{とき}より^ある^ん。
 ぬ^ひ。書^{かき}置^{おき}。そ^の時^{とき}を^授け^る。浅^{あさ}ま^の。女^{にょ}の^思智^ち
 あり。思^{おも}ひ^のあ^まく^めも^いら^まく^めも^まは^ら煩^{わづら}悩^{なや}み^の燃^も消^{しょう}の^心
 へ。彼^{かれ}人^{ひと}の^睦と^き中^{なかつ}に^あり^まし^う。物^{もの}も^燃身^みも^世も^ある^も
 ぬ^ぬ。う^らや^ま。そ^の時^{とき}終^は不^ふ娘^{むすめ}の^多紙^{かみ}紙^{かみ}。こ^の時^{とき}成^{なり}佛^{ぶつ}
 あ^まり^まる^も。今^{いま}は^身が^梅を^所刀^た裕^よ子^こ急^{いそ}ぐ^る道^{みち}。こ^のづ^のふ^のり^の。そ^の時^{とき}不^ふ林^{りん}ト
 今^{いま}より^その^時を^借り^のひ^の程^{ほど}と^言述^{のたま}え^んと^圖主^{ぬし}の^医
 を^破る^も。捺^{おさ}落^{おち}の^着衣^ぎと^思ひ^つ。あ^まり^まる^も。こ^の時^{とき}か^ら。

全三編上

七

此一番を彩むより。といふうち向ふ火の車。わ身この半段
 可成多のいくと。彼羅の鼓阿責の杖鳥。彼の心と塵を
 猛火四方に散乱しく。覆ひのまば声をして。わらわらや
 絶ぐや。女の泣き遣を。如何に今さう貴人とも。必ひ
 一途止む。南苦くや。如きやと。叫ぶ声は未枯く。
 猛風颯とや。素川のやも。利の鬼の阿責。子程ひま
 はまが打たる。鼓の音のどろく。と。さもする。死火の雨
 小黒雲。ひらがり引はく。髪の色より。引はく。あう。堪

かやと叫ぶと。足え。が。發然と。驚き。覚ま。物も
 おそろきのふと。まう。流る人と。突ふ。ま。是る
 如何と。押へ。と。ひる。く。と。投さ。一。突轉を。娘の
 念力。忍ろ。く。力量。利。を。指。嗟。の。女。の。一。心。鼓。不。世。是。心
 も。驚。も。う。り。礼。一。外。面。へ。み。出。走。さ。り。ぬ。

仇競今様梯三編上之巻終

Handwritten text, possibly a title or header, located at the top of the right page.

Main body of handwritten text on the right page, enclosed within a faint rectangular border. The text is written in a cursive script and appears to be a list or a series of entries.

The left page of the manuscript is mostly blank, showing signs of age, including creases, wrinkles, and some light staining or foxing.

